

「手順の伝達」から「基礎概念の獲得」へ

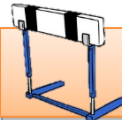
～家庭生活 Cグループ(支援度の最も高いグループ)での「塩梅(塩加減)^{あんばい}」の実践～

川西高等特別支援学校 岩井 晶子



本実践のねらい・目標

- ・健康にいい塩分濃度を知り、試行錯誤しながら調節して近づける。
(主体的・対話的な深い学び)
- ・普段食べているカップラーメンの塩分濃度を知り、食べ過ぎると危険なことに気付く。(日常生活の見直し)



生徒の実態からスタート!

- ① 炊飯や洗濯の手順を繰り返し教えて、**できるようになった!**
- ② 2日後、**全くできない!!**



手順を繰り返し教え込むのではなく、体験的に基礎概念を育てる必要がある。



授業の様子①

基礎概念を育てる→塩加減の授業

- ・出汁入り味噌汁をちょうどいい塩梅に!
⇒**自分の好み** or **その場かぎり**



健康にいい塩加減(塩分濃度計を活用)を知らせ、そこに近づけていくように路線変更!
*色やマーク等で視覚支援をした表の利用



授業の様子②



インスタントラーメンも
ちょうどいい塩加減に!

食器の選択で濃度を調節できる?
→ラーメン丼がいい!(固定観念)

同じラーメン丼で
お湯の量を調節



試行錯誤

調節できた!



日常生活へ

健康にいい塩加減があることが分かった

家のお汁の味が少し濃い気がするな。

カップラーメンは**塩分濃度**が高い!



好きなのに困ったな。気を付けなくっちゃ。



成果と課題

(成果)

- ・試行錯誤しながら塩加減を調節できた。
- ・**2種類**の食品で、調節できた。
- ・「**好み**」と「**健康**」との間で葛藤する姿

(課題・・・身に付けさせたい力)

- ・日常生活でもいい塩加減にできる力
- ・塩分だけでなく**糖分等**の加減もできる力